

みどりの ニュースレター

3

2012
No.226

市民の発信で持続可能な社会をつくる

特集：3.11から1年 これからの考える



特定非営利活動法人

環境市民

¥200

収益の一部は環境市民の活動資金として使わせていただきます。なお、会員には毎月無料配布しています。

このニュースレターはボランティアの手で折られ発送しています。



21世紀 地球を、地域を、生活を、持続可能な豊かさに
<http://www.kankyoshimin.org/>



Twitterやってます！
アカウントは kankyoshimin です。

みどりの ニュースレター

No.226 2012年3月号

編集員が行く！ 02

こんなスーパーあったらいいな

特集：3.11 から一年 これからの考える 03-08

行事案内 09-10

とれたて 環境市民 10-12

新プロジェクト「ぬいカフェ」第1回～手作りお菓子とお茶を楽しみながら、お気に入りの布や糸でチクチクぬいぬい♪～新オフィスおひろめ会を開催しました！

地球のなかま 13

第48回 日本人はエビがお好き？
—— 先進国で消費されるエビ

読者交流コーナー みどりのかわらばん 14

1/ 環境市民 15

日本古来の暮らし方、その佳さを伝えたい
一人ひとりの変化が、「環境問題」に生きた変革を
もたらすと信じて／池田 浩子さん

次号
予告

みどりの
ニュースレター

No.227
2012年4月号

現在
編集中！

特集：里山を遊ぶ（仮）

春です。里山に出かけて春を感じてみませんか。里山に行って何する？ どうやって遊ぶ？ せっかくだし、環境のことも学びたい。そんなみなさんにおすすめの学び方、遊び方、楽しみ方を紹介します！

編集員が行く！

編集部のアナテナにかかった選りすぐりの
エコ情報を伝えます！

No.33 こんなスーパーあったらいいな

蜂蜜や塩、ドライフルーツやナッツ、ピーナッツバター、小麦粉などの粉類、お米などの雑穀、コーヒー、シリアル。こうした商品を扱っているスーパーがある、というのは不思議じゃないけれど、これが全部量り売りだとしたら……。そんな、グリーンコンシューマー必見の売り場が、まさにあった。



場所は、米国、ワシントンにある Tacoma (タコマ) スーパー。ここは日本でいうと、環境派生活協同組合、といったところ。環境や社会的公正に配慮した製品を販売する店の趣旨に賛同する人たちが出資してつくられている。地産地消の取り組みも盛んだ。店から 200 マイル (約 320 キロ) 以内の商品を優先的に選ぶ、という方針を持っており、サンドイッチやサラダなどの惣菜やジャム、ジュース、パン、牛乳、お肉、野菜などさまざまな製品に「Local (地場産)」と書かれた札がついている。オーガニックはほぼ基本、といってもいいほど、ほとんどの商品に認証ラベルがついている。バレンタインの前だったので、チョコレート売り場があったが、もちろん全てフェアトレード。グリーンコンシューマーの第一原則「必要性を考えて購入する」を忘れて買いに走りそうになった。

そして量り売りコーナー。4、5メートルほどの店の陳列コーナーの両側に量り売りケースがずらっと並ぶ様子は圧巻。人気のコーナーだという。見学している間にも、スパイスを買っていく人がいた。家族が多くても少なくとも、そのときどきのニーズに合わせて「必要なだけ」買える量り売りはやっぱり便利だ。袋に入れて量るだけなのでごみも少ない。家の近くにこんなスーパーがあったらなあ。プラスチックごみも、空き瓶もたまらなくてさぞ気持ちがいいだろうなあ。しかも、オーガニック&ローカル。毎日行って「必要以上」に買ってしまおうかも。でも日本につくりたいなあ！

(文／ニュースレター編集部 有川 真理子)

特集：3.11 から一年 これからを考える

プレゼントを受け取ったみなさんは今 ～被災地支援 TASUKI プロジェクトのその後～

環境市民では、NPO法人阪神淡路大震災1.17希望の灯り（略称HANDS）が行う「TASUKI PROJECT」（タスキプロジェクト）に賛同し、東北地方太平洋沖地震の支援のため、洋服や日用雑貨などをみなさんから募集しました。自分と同じ年齢や性別の人に「プレゼント」をする気持ちで、セットしたものをもってきてください、と呼びかけたところ、約1400ほどの「プレゼント」（支援）が集まり、環境市民の旧事務所の部屋だけでは収納しきれず、近隣のビルの方にもご協力いただき、一時保管をしました。

その後、プレゼントを受け取った方からお便りをいただきました。今回はその方々に近況をうかがいました。

“ 一次産業の回復を ”

昨年の3月11日の大震災から10か月余が経過しました。直後からこちらで全国からの支援物資を被災地に届ける無償の青空市場に参加し、昨年（1月29日）で104回、のべ人数で七千人位の被災した方々に会う機会を得ました。最近、この大震災を体験した人たちが皆ドラマの主人公だということを感じます。私も含めてそれぞれが目にした多くの人達が時間の経過とともに、自分のこと、周囲のこと、友人、知人のことを少しずつではありますが、私たちのような他人にまで生々しく話しはじめています。

また、ライフラインが整い、当初予定されていた仮設住宅も不十分ながら完成し、それらの生活実態も外部に知らされてくるに従い、多くの不満も表面

化していることも事実です。もともと三陸の小さな自治体で主な産業が水産業だった町が生産手段を失い、未だに海岸線の地盤沈下の部分が高潮の度に海水に洗われる光景この地域の将来を暗いものにしていきます。その結果この町から現役の若い人達が他市に去っていくことです。働く場所を失った町の過疎のスピードは今まで以上に早まるでしょう。今私の住んでいる地域には冬休み、土日祭日にも子どもの声がほとんどしません。今、復興の話はいろんな方達が話されていますが、地元に残って第一次産業を回復させなくてはこの問題は解決されないように感じます。

環境市民も含めて多くの人達から援助を受けました。私たちの周囲でも感謝の言葉が多く飛び交います。体力の続く限り、私たちの活動を続けたいと思っています。（大船渡市 新沼 康利さん）

“ 自然に想定外はない ”

月日の経つのは速いもので、あの災害から1年過ぎようとしております。日本各地、世界中のみなさまからの暖かい支援をいただき感謝しております。まだ、この寒さの中でも仮設住宅の住民が困っていないか見守っていただき多くの方々がありたく思っております。

最初に必要なものとして「衣食住」がありますが、その次が「職」です。現在は失業手当で暮らしている人が多く、まだ企業再建まで至っていません。国の予算が市町村、企業に来るまでにはまだ時間がかかります。

「職」と同時に「教育」が必要です。ニュースレター12月号の5ページに釜石市の中学生の記事がありました。この災害を教育の機会として将来の日本、故郷再建のための教育が必要だと思います。

NPOボランティアの在り方についても一言書きます。様々なところから支援物資をいただきまし

た。今は、仮設住宅に各NPOから同じもの（例 クリスマスプレゼント）がくるという事態がおきています。NPO活動はありがたいことですが、災害時にはNPOを管理し、物資がどの施設に届けば有効かコントロールすることも必要ではないかと思えます。ネット情報で非常時、物資人材が無駄無く活用されることを期待します。

今年は南海地震津波災害の恐れが騒がれている時。支援だけではなく教訓として活用されることを望みます。平成17年スマトラ沖津波の時、三陸地方も警告として同様の災害が予測され、新聞などで記事になりました。我が身に置き換えて考えた人は少なかったことが今回の災害と少なからず関係があったと思われ。まさか自分のところへ自然に想定外は無いです。

私も微力ながら地元のために役立つ存在になりたいものです。みなさまの活動がこの各地の方々とながら、良き環境を創られることを祈ります。

（大船渡市 千葉 剛司さん）



飯舘村の 今

福島県飯舘村は福島第一原子力発電所から北西に40～50キロほどのところにある美しい農村の村です。しかし、風向きによって放射性物質が拡散、人が住むのが難しいほどの高線量に汚染されてしまいました。にもかかわらず、政府は、同心円状で20キロ圏内の区域にしか立ち入り禁止区域を出さなかったため、村人や避難してきた人約1300人が被ばくしてしまいました。昨年8月8日（月）、環境市民主催の野の塾「原発事故が奪った暮らし 福島県飯舘村から」を開催し、酪農家で福島県酪農業共同組合理事、そして前田地区区長の長谷川健一さんに、3.11直後の村の様子を語っていただきました。震災から丸11か月になる2月11日、神戸市中央区の兵庫県中央労働センターにて今の暮らしや村の今後について前回にも増して熱く語られました。

—8月の講演会の時点では、飯舘村住民250人のうち希望者35人が鹿沼市へ集団避難したとお聞きしました。その後変化はあったのでしょうか？

避難先での暮らしになじめず、たくさんの村民が「やっぱり故郷が良い」と戻ってきてしまいました。仮設住宅は何か所かにできてきていましたが、私は前田地区の区長として、「同じ部落に暮らしていた人たちはみんな、同じ仮設住宅に入居できるようにしてほしい」と国や町長に掛け合いました。ただでさえ心細い避難生活。見知らぬ人ばかりの中で暮らしたのでは、阪神淡路大震災の時のように仮設住宅での孤独死が多発すると考えたからです。しかし自治体に任せていても入居先はいっこうに決まりません。

そこでしびれを切らした私は独自に探し回り、なんとか入居先を見つけることができました。ただし決定するにあたって、私は五つの条件を決めていました。それは

1. 病院が近いこと
2. スーパーマーケットがあること
3. その仮設住宅の周りが住宅地であること
4. 木造の仮設住宅であること
5. 故郷飯舘村に近いこと

病院、スーパーがなければ生活は成り立たないし、いくら仮設があってもその周りに人が住んでいなければやっぱり寂しいですよ。

現在は私の住んでいた地区全56戸のうち22戸が一緒に伊達市にあるその仮設に暮らしています。“言い出しっぺ”なので、私の家族もここに入居しています。

—酪農については廃業ではなく休止ということに決めたと8月の講演でお聞きしました。現在はどのようなことに注力されているのでしょうか？

酪農の仕事はありませんから肩書は無職です。私が今できることは福島第一原発事故を風化させないために、日本全国呼ばれればどこへでも出かけて行ってありのままを話すことです。それ以外の時間は村民の家を

訪ねて回る「見守り隊」という活動を行っています。

—今後の飯舘村についてどのように考えていらっしゃるのでしょうか？

私は「『2本のルール』を引かねばならない」と考えています。一つは除染という道、そしてもう一つは村を捨てるという道です。生まれ育って、酪農を営んできた故郷への想いはもちろん溢れるほどあります。しかし、そういう道もシミュレーションしていく必要があると思っています。現在政府は除染一筋に進んでいます。しかし3.11後の政府のいい加減な対応、御用学者による「安全宣言」でほとんど嫌になりました。ですから私は国の言うことは全く信用していません。私の住んでいた地区の土壌・水などの検体も地区で独自に採取して国とは別の検査機関に出して調べてもらっています。

聞くとところによれば400平方キロメートルの土地を除染するのに6億円かかるのだとか。何かの指標で除染の効果をきちんと見定めて判断しなければ、無駄な出費が続くだけです。

日本政府は「放射性物質は土壤に付着するので除染が有効」という考えのようですが、諸外国では「放射性物質は浮遊するので土壤を取り除いただけでは有効ではない」という考え方ようです。現に和歌山が大被害を受けた大型台風が来たとき、一時飯舘村でも放射性物質の値が下がり、台風が去るとまた値が元に戻りましたからね。それに取り除いた汚染土壌「その土、どこさ持ってくんだけ？」ということですよ。

また、飯舘村の75%は森林なのに、国の定める除染対象地域に山林は含まれていません。どれだけ有効なのかはなはだ疑問です。

(まとめ／ニュースレター編集部 坂部 安希)

2012年2月11日(土)に開催された「福島と向き合う講演会 飯舘村酪農家・長谷川健一さんを招いて」
(主催 さよなら原発神戸アクション)より

福島第一原発は今？

(京都大学原子炉実験所 助教 小出 裕章)

福島第一原発についての情報は、私のように原子力の研究をしている者にも、開示されることはありません。私が見られる情報は、みなさんと同じように、一般に公開されているものだけです。ですから、私が申し上げていることは、私が推測していることだと思ってお聞きください。

冷温停止状態という言葉

今、2号機の温度上昇が伝えられていますが、温度計の一つはおそらく壊れていると思います。したがって、低い温度で安定していると思います。政府は冷温停止状態などという、訳のわからない言葉を用いていますが、本来冷温停止というのは、ちゃんとお釜があって、水もあり、その中に炉心が漬かって、低い温度で安定している状態を言います。いま、炉心自体が溶け落ちてしまっているのに、冷温停止に状態という言葉をつけて、訳のわからない言葉を作りあげていますが、これは、決して本来の冷温停止という状態ではないことを申し上げておきたいと思います。

地下や海にあふれる汚染水

福島第一での事故が起きてしまった時点で、何の手当もできないまま、すでに放射能がまきちらされました。この時点で、東京電力と政府には甚大な責任があります。1週間後に電源が回復し、なんとか重大な事態は回避されたものの、こういう事態を予測していなかったのが、測定機の配置もされておらず、たまたまある測定機も壊れているものが多い状態です。ロボットが投入されていましたが、ロボットが活躍できる場所はほとんどないと思った方がいいです。人間が行けない場所にいける、ほぼそれだけなのです。

12万トンもの汚染水が、建屋やピットにたまっているのですが、これが問題です。こういうものはほとんどコンクリートでできていますが、コンクリートというのは、必ずと言っていいほど割れています。この割れ目から汚染水は、今も地下や海に漏れている、そんな状態です。タンクはありますが、その容量はとっくに超えています。去年の3月からずっと、汚染水をタンカーに移せと私は言っているのですが、お金がかかるからと、未だになされていません。そんなことを言っている場合ではないと思います。汚染水は世界につながっている海に流れ出てしまっています。

地下水汚染防止バリアは2年後！

今も放射能は放出され続けています。溶け落ちてしまった炉心が地下に落ちて、そのまま行けば、地下水と接触してしまいます。昨年5月から、バリアをしろと私は言っていますが、2年後にすると東京電力は言っています。それではあまりにも遅いと思います。

今も、ほとんどは下請けで働きに行っている人たちによって、懸命に復旧作業がなされている訳です。1986年に起きたチェルノブイリの事故では、60万人～80万人の退役軍人などが作業に借り出されました。日本でもこれからこうした作業がなされていく必要があります。

おそらくこれから多くの人たちが被曝をしながら作業をしなければいけないのです。

(まとめ：ニュースレター編集部 千葉 有紀子)

※2012年2月16日(木)放送「環境市民チャンネル」よりご出演いただいた小出裕章さんのお話を文章として再構成しました。文責は編集部にあります。

全世界&放送終了後もぎげます

環境市民 channel “福島原発事故を知る”

福島原発はいまだに収束せず、放射性物質を放出し続けています。また、政府や電力会社からの情報は後追いで、また内容も不十分です。過去の原発事故から考えると、予防原則で情報を発信し行動していくことが重要です。そこで、除染や現在の原発の状況、内部被ばくによる影響などマスメディアではなかなか報道されていない情報を、環境市民のネットワークや環境NGOとしての視点をいかしながら、専門家や活動している方にうかがい、わかりやすく伝えます。

放送日時：原則毎週木曜日午後7:30から8:00

(変更することがありますのでウェブサイトやツイッターなどでご確認ください)

配信URL：<http://www.ustream.tv/channel/cefchannel>
Ustreamを活用して音声と画像をお届けします。

パーソナリティー：下村 委津子(本会理事、フリーランスアナウンサー、ecoパーソナリティー)

●番組制作のための寄付も募集しています！●この番組を制作するための寄付も募集しています。ぜひ、放送を継続し続けていくためにもご協力をよろしくお願いいたします。

<郵便振替口座> 01020-7-76578 (名義) 環境市民

震災直後に放送したラジオ特番でも、何度もご出演いただいた細川先生に、チェルノブイリ事故にもお詳しい立場から、原発事故の今後についてどうとらえるべきかご執筆いただきました。

チェルノブイリと水俣の教訓を今こそ

(文/京都精華大学 教授 細川 弘明)

震災直後の昨年3月、地域FM「京都三条ラジオカフェ」と環境市民が共同制作した震災特番シリーズで福島原発事故について何回かお話しする機会がありました。そこで私は「チェルノブイリで起きたことは、福島でもすべて起こる」と、いささか物騒なコメントを述べました(3月25日放送の音声アーカイブj.mp/radio325、同28日 j.mp/radio328)。これをもっぱら健康被害の予言として受け取ったりリスナーの方もあったようで、放送後にご批判もいただきました。健康被害のことも念頭にはあったのですが、むしろそのとき懸念していたのは、チェルノブイリ事故のあと起きた社会的な混乱と不正義が日本でも丸ごと繰り返されることになるのではないか、ということでした。

チェルノブイリ事故の後に起こったこと

それはたとえば次のようなことです。被害の過小評価と過大評価の争い、それによる混乱と不和。甘い見通しによる防護措置(とくに避難)の遅れ。マスクも巻き込んだ安全宣伝、そして「安全・安心」に同調しない人々への容赦ない攻撃。家族や地域社会のなかでの気持ちの行き違い。食生活や疎開移住をめぐる判断の分かれ。妊娠・出産をめぐる悩み。学校の対応と親の考え方のずれ。「認定」される被災者とされない被災者の切り分け。被害者たたき。自治体による対応の差。「放射能に効く」と称する薬剤や食品をめぐる噂話や商売。汚染食品や汚染機材の無秩序な流通、偽装表示。汚染濃度の高い食品を市場に環流させるため、汚染の低いものと混ぜ合わせる「希釈政策」の公然化。被害認定・賠償を求める交渉や裁判の長期化、そして司法判断の不一致。

チェルノブイリ事故のあと周辺地区や遠方の都市でおきたこれら人間社会の軋み、争い、不当な行為などが、福島だけでなく日本各地でおこることは容易に想像できます(現実におこりつつあります)。実はこれらは水俣病事件で起きたことともかなり共通しているのです。その意味では「水俣で起きたことはすべて起こる」と言うべきだったかもしれません。

苦しみを少しでも減らしたい

チェルノブイリと違って人口密度がはるかに高い日本では、長期的な放射能汚染と被ばくの影響がより深刻なものになる恐れがあると私は考えています。チェルノブイリと水俣の教訓は、私たちの社会がときとして被災の苦しみをひどく増幅させてしまうことがある、ということです。「安心」の押しつけではそのような事態を防ぐことができません。

最善の策は

関西地方は今回たまたま深刻な汚染を免れました。東日本からの避難者のさらなる受入れ、東日本への清浄食品の供給など、関西が果たせる役割は大きいはず。すでにさまざまな試みが始まっていますが、今後数十年という長期にわたって担っていくべき役割であることを強調したいと思います。それによって苦しみの増幅を少しでも防ぐことに努めたい。その責任を果たすためにも、汚染の拡散や新たな汚染の発生を許すことはできません。

福島事故のあと、滋賀県では原子力防災計画の抜本的な見直しを始め、私も検討委員としてお手伝いしました。しかし防災計画をいかに念入りに立案したところで安全も安心も約束されません。防災計画は災害の発生を前提にしたものです。原発で大事故が発生したら、本気で逃げる以外、私たちにできることは限られています(防災計画は上手に逃げるための準備です)。原発事故は「天災」ではないのですから、そのような準備をしなくてもよい状況を作り出すのが本当の防災でしょう。

福井県で動いている最後の原子炉、高浜3号が2月20日には定検入りします。ですから、この文章が皆さんのお手元に届く頃、若狭の原発群はすべて停止しているはず。それらを二度と動かさないことが最善の(そして実はもっとも安あがりな)選択です。

紙幅が尽きましたが、原発事故後の絶望と希望について私の見方は、ウェブ j.mp/xL338k (映画『原発、ほんまかいな?』を見る人へのメッセージ)を御覧になってください。

国、NPOが なすべきこと

日本がほんとうに脱原発をすることは、同時に気候変動（地球温暖化防止）に本質的な取り組みをすすめることにつながります。そのために国とNGOはどのようなことをするべきか、簡潔にまとめました。（文/本会代表理事 枚本 育生）

国がなすべきこと

1. 脱原発、化石燃料に頼らない社会とはどのような社会なのか、そこで人々はどのような暮らしや仕事をしているのか、それを明確にすることです。この将来像を描くことにより現状との乖離がより明確となり課題をわかりやすく整理できます。そして将来像を実現するための「対策」ではない戦略的な政策を組み立てることが可能となります。さらにその中で環境を大切にするための新たな産業と雇用の創出も明確に描くことができます。
2. 地域を独占支配してきた九電力会社を解体し、再生可能エネルギーを中心とした新規事業者の参入をうながすこと、そのためには発送電の分離も当然必要です。フクシマの重大事故があって、まだこれからも大きな影響が考えられるのに、九電力会社は自らの利益のため、原子力村の官僚や「専門家」とともに原子力推進をあきらめていません。その力を衰退させるためにも、九電力会社を解体は必要です。
3. 再生可能エネルギーと気候変動防止を推進する社会的仕組みを構築することです。再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度はできましたが、日本はまだ炭素税（環境税）や二酸化炭素のキャップ付き国内排出量取引など、再生可能エネルギーと気候変動を防止するための社会的な制度を構築できていません。このような制度はすでにヨーロッパの多くの国で実現し、大きな成果を生み出しています。
4. 再生可能エネルギーの技術開発を本格化するために国のエネルギー研究開発費を大きく変えることです。日本のエネルギー研究開発費は、世界一の金額ですが、その多くが原子力関係に費やされています。2012年度の予算案でもそれは変わっていません。技術は、集中的に力をかければ大きく進歩させることは可能です。より効率のよい、扱いやすい、安価な再生可能エネルギーの技術を高めていくことは、環境を大切にするだけでなく大きな雇用を生むことにも直結しています。
5. 再生可能エネルギーを中心とした電力供給のためには、スマートグリッドの構築が必須です。これまでの大発電所から、家庭、事業者等の使用者にほぼ一方的に流していく送電システムではなく、小さな再生可能エネルギー発電所をインターネットのような

網の目で結んでいき、コンピューターで需給調整するシステムを構築することで、大きな雇用創出も期待できます。

6. これまでのエネルギーの半分以下で、人々が豊かに生活し働く近未来地区を構築することです。まだ多くの人は、このようなことがすでに可能になっていることを知りません。スウェーデン、ストックホルムのハンマルビー・シェースタード地区、ドイツ、ハノーファーのクロンズベルグ地区などで実現していますが、日本ではまだありません。大震災で大きな被害のあった東北のまちの復興などで、このようなまちを実現させることは、日本の人々が、社会が変わることが現実に可能であると認識することになります。
7. 情報の開示し国民参画を大きく飛躍させることです。フクシマの事故後も官庁や大電力会社による情報の秘匿が続いています。また東北の多くのまちの復興計画は、コンサルタント会社が住民参画も得ずに絵を描いています。原発を安全だと言って進んできたこの国のシステムは全く変わっていません。原発関係を始めあらゆる政策にかかわる情報の開示と、国民参画と地域主体で政策を進めていくシステムに切り替える必要があります。

NGOがなすこと

1. 残念なことに、上記した国がなすことは、現在の日本ではなかなか実現しそうにはありません。政府や政党が構想できないのであれば、このような本質的なパラダイムシフトと政策転換をNGOは常にあらゆる媒体を使って提案し続けることが必要です
2. 日本の自治体の中には、国とは違って大きく政策を変えていこうとしているところが出てきています。そのような自治体と戦略的なパートナーシップを組んで、上記のことをすすめるような政策を地域から実際にやっていくことが重要です。また、事業者の中にもこのような戦略的なパートナーシップを組むことが可能などがあります。
3. 日本と世界を大きく変えていかねば、人類に未来はありません。それを担う人材を育てていくこともNGOの大切な役割です。
4. 情報の咀嚼と提供

Donation!!

寄附
募集

一人でも多くの子どもたちを少しでも長く避難できるようにご協力を

「わたり土湯ぽかぽかプロジェクト」

福島第一原発から60km。6700世帯、16000人が暮らす福島県渡利地区。ここは、毎時1～3マイクロシーベルトという高い放射線量が続いている地域ですが、国が避難区域に指定する基準、年間20ミリシーベルトに満たないと判断され、未だに避難区域に指定されていません。しかし、実際には6月の段階で毎時3.2～3.8マイクロシーベルトが観測されるなど、高い線量が観測される地域があることは分かっていました。

市民団体、環境NGO FoEジャパンなどでは、住民対象の説明会の実施や全域での調査、そして、住民が避難するかとどまるかを選ぶことができる「選択的避難区域」に指定するよう、国に再三、求めてきました。しかし、国の対応は遅く、事故後七か月後に説明会をやっと開く、という状態でした。その説明会でも国はあやふやな対応をするばかりで怒った住民はとうとう、東京で国の原子力災害対策本部や文科省、原子力安全委員会と直接交渉を行ったのですが、「誠意を持って対応する」と答えるにとどまりました。

国も行政も動かず、高い線量の中で暮らさなければいけない状態——これはもはや人道上的問題です。そこで、Save Watari Kids, 子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク、福島老朽原発を考える会、FoE Japanの4団体が、一時的にでも、渡利地区に住

む人たち、特に子どもたちを避難させようとスタートしたのが「わたり土湯ぽかぽかプロジェクト」です。



開村式で行われた人形劇の様子

土湯は福島市の西部に位置し、空間線量は毎時0.1～0.2マイクロシーベルトと低く、渡利の1/10～1/20です。

1月末に第一陣の15家族が温泉へ。雪遊びや人形劇、紙芝居を楽しみました。

環境市民ではこのプロジェクトに協力し、子どもたちが避難するための寄附を募集します。プロジェクトでは宿泊費の補助、交通費、運営費などに使われます。目標額は1,000万円で、現在現在600万円集まっています。

一人でも多くの渡利地区のみなさんが、少しでも長く避難できるよう、みなさんの支援をどうぞよろしくお願いいたします。

▼詳しくはこちら

<http://www.foejapan.org/energy/action/111212.html>

「わたり土湯ぽかぽかプロジェクト」への寄付

A. 一般寄付	—□ 3,000 円
個人の方からの寄付	
B. 団体寄付	—□ 10,000 円
NGO/NPO や市民団体など。お名前を紹介させていただきます。	
C. 協賛寄付	—□ 100,000 円
企業、NGO/NPO や市民団体など。お名前を紹介させていただきます。	

＜口座からのお振込み＞

- ① 東邦銀行 本店 普通 3697748
口座名義：わたり土湯ぽかぽかプロジェクト
代表 菅野吉広 (かんのよしひろ)
- ② ゆうちょ銀行 18230-29132261
口座名義：わたり土湯ぽかぽかプロジェクト

FoEジャパン スタッフ

満田夏花さんからのメッセージ

福島市渡利地区は放射能汚染が深刻な状況であるのにも関わらず、ずっと放置されてきました。除染がおわるまでには最低1年を要し、除染土は各家庭の庭に一時保管することになっています。除染を言い訳に、子どもも妊婦も高い線量に縛り付けるような国の政策は、人道上の罪でしょう。

いまこのときにも渡利の子どもたちは高い放射線量の中で通学し、遊び、生活しています。

「わたり土湯ぽかぽかプロジェクト」は、そんな状況を踏まえて発足した小さな小さな取り組みです。現在の避難基準の年20ミリシーベルトは、厳格な放射線管理が行われている放射線管理区域の4倍近く。この基準そのものの見直しが必要です。

渡利の問題は渡利だけの問題ではありません。福島の、そして日本全体の問題です。ぜひ、渡利の子どもたちを守るために、みなさまも関心をもってください。

行事案内 2月

京 1 Day ボランティアデー

毎月エコな話題をおしゃべりしながら会報誌みどりのニュースレター発送作業をしています。どなたでも参加できます。環境市民の事務所ってどんなところ？どんな活動をしているの？などいろんな質問にもお答えします。新しい事務所を見てみたい、という方もぜひお気軽にご参加ください。

*とき：3月29日(木) 午後2:00から午後7:00頃まで
*ところ：環境市民京都事務所

京 第3回 めいカフェ

先日、2月19日に開催した「めいカフェ」第2回では、持ち寄りの豪華おやつをお供に、とある会員さんの希望を受けて「ジーンズのリフォーム」がテーマとなりました。

ジーンズって、たった一か所穴が開いても、まだまだ丈夫でなかなか捨てられませんよね。だけどその穴の位置が問題です。今回集まった6本、みんな見事にお尻に穴が開いていて……(続きはweb、または直接見に来てくださいね！)

こんな風に「めいカフェ」では、あなたの「縫いたい」「活かしたい」を叶えます。3月はジーンズ続編のほか、新たに足袋やセーターのリフォーム希望も入っています。なんとかかしたいと思いつつ、放つたらかしの服や布たち、この機会に引っ張り出してみませんか。

*とき：3月11日(日) 午後1:00から4:00

*ところ：環境市民京都事務所

*参加費：カンパ制(材料費、茶菓子代)

*持ち物：

- ・作りたいものがある人は、その材料と裁縫道具。
- ・特に決めてない人は、カワイイふきんを縫いましょう。
- ・好きなお菓子やお茶(大事！)「

※ふきん用の生地と糸などはご用意できます。好きな生地と糸を持って来てもモチロンOK。あとは針、指ぬき、はさみ、(あれば)チャコペンなど。

*申込み：名前、電話、FAX、メールアドレスを環境市民までご連絡ください。「めいカフェ」へのメッセージもおまちしています。メール：nuicafe@kankyoshimin.org (関連情報P12、P5)

京 環境市民 東 環境市民東海 滋

京 自然住宅研究会 見学&ミーティング

*とき：3月2日(金) 午後1:00から午後3:00

*ところ：環境市民京都事務局

※事務局近くで現地見学を予定しています。参加希望の場合は事前にご連絡ください。

滋 春日山公園の生物観察会

春日山公園のピオトープ池付近における池の植物、水生生物の観察会、および、園内の生物の観察会を行います。

*とき：3月4日(日) 午前9:00から12:00※雨天中止

*ところ：大津市真野谷口町「春日山公園」

*持ち物：活動しやすい服装、タオル、軍手、ゴム長、夕モ網など *参加費：無料

*申込み：滋賀事務所

mail：cefshiga@kankyoshimin.org

申込み締切：2月29日(水)まで

滋 はじめてのスポーツ自転車 買い方・乗り方・メンテナンス

スポーツ自転車に乗ってみたいけれど、選び方が分からない。

買ったけれど使い方がよく分からないというあなた！選び方からメンテナンス、パンク修理の仕方まで、自転車店の方々から3回シリーズでみっちり学べます。

第1回：どんな自転車がいいの？ 買い方から乗り方まで

第2回：ベストな自転車に乗ろう！ 掃除と調整の仕方

第3回：長距離サイクリングも安心！ パンク修理と輸送

*とき：3月21日(水) 午後7:00から8:30

4月11日(水) 午後7:00から8:30

4月25日(水) 午後6:30から8:30

*ところ：フェリエ南草津5階 市民交流プラザ中会議室
JR南草津駅の東側(改札口から歩道橋で直通)

*講師：

第1回：長谷川 悟士さん(サイクルショッププライフ)

第2回：深田 宏さん(スポーツサイクル深田)

第3回：浦松 武司さん(自転車工房フィット)

*参加費：1回1,000円 全回参加なら2,500円

*定員：第1.2回は各30人、第3回は20人
 *申込み：輪の国びわ湖推進協議会 事務局
 〒522-0088 滋賀県彦根市銀座町1-4
 NPO法人五環生活内
 E-mail info@biwako1.jp
 TEL 0749-26-1463
 FAX 0749-29-1245
 *申込み締切：開催1週間前
 *問合せ：輪の国びわ湖推進協議会事務局
 *主催：輪の国びわ湖推進協議会
 ※輪の国びわ湖推進協議会には、環境市民も構成団体として参加しています。

新入会員 インタビュー

上田 賢 さん
 (京都市在住) 1月31日入会

私の勤めている清掃会社が、平成24年度から新たに環境事業会社になります。これに向けて、昨年は環境教育リーダー養成講座を受講。小学生への環境教育を軸に、より濃密な環境事業を展開できるよう勉強を始めました。子どもたちはもちろん、これからは社内でも他のメンバーを引っ張っていけるような、環境の「リーダー」になりたいですね。

新入会/寄付 (1月1日から1月31日まで)

〈新入会〉上田 賢/古川 潔
 〈寄付〉(財) ジャストギビングジャパン

チーム・バベルは仲間を求めています！

映画「バベルの塔」上映会 企画メンバー募集

3月11日に起きた原発事故によって原発の安全神話が崩れました。今回、福島原発事故の取材、そして原発の問題についてつくられたドキュメンタリー映画、それが「バベルの塔～続 24000年の方舟」です。環境市民も映画の一部で登場しています。



より多くの人に、原発の問題を知ってもら

うため、この映画の上映会を開催することにしました。そこで、一緒にこの映画の上映会を行うメンバーを募集します。特に学生や若い人に関心をもってもらいたい、企画に携わってもらいたいと考えています。より多くの人に原発問題を知ってほしい、多くの人に伝えたい！ と思っているみなさん。ぜひ私たちと一緒に上映会を開催しましょう！ 関心のある方はお気軽に環境市民までお問い合わせください。

とれたて！ 環境市民

環境市民の今、そしてこれからの活動をお知らせします

新オフィスおひろめ会を開催！

～すごろく、ベジ料理におおにぎわい～

大量の資料や物で溢れ、人がすれ違うことにも苦勞していた旧オフィスから、環境市民オフィスが移転をし、2か月が経ちました。オフィスも片づけられ、人も呼べる状態になりました。そこで、新しく様変わりしたオフィスに来てもらうために、1月29日(日)の12:00から環境市民の新しいオフィスのおひろめ会を開催しました。今回はその模様について紹介します。

●新オフィスもノックは要りません。

「ノックをしないでお入りください」。廊下の突き当たりにある重たそうな鉄の扉を開けると、そこには日の光がさんさんと入る開放的な空間が広がり、多彩な料理がきらきらと輝いていました。先月号にも取り上げたように、旧オフィスと比べると、物が整理され、床は絨毯素材に、窓は

断熱シートを張るなど変化が多く、子どもも裸足で走りまわれるほどの開放感にぬくもりもプラスした快適なオフィスになりました。

●おひろめ会は大盛況

当日は、会社員や学生など、総勢32人の会員やボランティアが参加し(スタッフは8人)、大盛



食べたり話したり大にぎわいの新オフィス

況な企画となりました。32人という学校の1クラス程の人数ですが、その人数が難なく入ってしまう新オフィスの広さに感心します。以前のオフィスを知っている方は、オフィスの変貌ぶりに驚いていました。

この日、環境市民に初めて来た方も10人程いました。おひろめ会は終始和やかな雰囲気、活動や料理などについてのお話で盛り上がっていました。

●多彩な料理

料理は地場、国産の野菜だけを使ったベジタリアン料理。つくっていただいたのは「アースキッチン たまや・ひよ」。普段は絵も描いているということで、一つひとつの食事の飾り付けに工夫されていました。色とりどりの食材と素敵な盛り付けで、おいしくてヘルシーな料理は、みんなから絶賛されていました。さらにこの日は、スタッフも前日から作った料理を提供して、食事に彩りを加えていました。参加者や会員の方からの差し入れもいただき、食べ切れないほどの料理が振る舞われ、参加者は忙しく食べまわっていました。食べまわることができるのも新オフィスになって、部屋を広く活用できているからなのですね。



盛りつけの美しさにも注目

●おひろめ会で出会った環境配慮の工夫

おひろめ会ではいくつか環境に配慮した方法で食事を出しました。まず食事の際に使う箸やお皿、コップなどは、使い捨てではない、ガラスや陶器のお皿を使って最低限のごみしか出ないように工夫しました。また余った食事は、帰ってお

いしく頂きました。おいしく食べて環境にも配慮する！ 大事なことですね。

●おひろめ会で出会った人たち

少しお腹も膨れたところで、自己紹介をしました。参加者は学生や会社員、公務員やボランティアなど多様な立場の方で、お互い興味津々で話を聞いていました。

また参加者の中には、環境市民で学んだことを活かして、新しい社会を自分達、市民中心で作ろうと挑戦している人もおり、市民のパワーを感じました。今後も環境市民を一つの場として、ずっとつながっていききたいですね。

一通り自己紹介の後は、すぐろくや環境市民の活動紹介などを部屋ごとに分かれて行いました。このすぐろくは、以前環境市民が10周年を記念して作成したもので、歴史や目標などが楽しみながら理解できる優れたものです。優勝者には素敵なエコバックも用意されていました。



手作りパンやお菓子、差し入れていっぱい！

●さらなる活動の発展に向けて

さて、おひろめ会は大盛況に終わりました。新オフィスを使ったイベントは今後も開催していきますので、皆さん気兼ねなくご参加くださいね。また環境市民は今年で20周年。オフィスの進化に伴い、活動もさらに発展させるべく、精進していきます！！ 新たな門出に立つ環境市民をこれからもどうぞよろしくお祈りします。

(文/環境市民ボランティア 峰松 峻也)

新プロジェクト 第1回「ぬいカフェ」

手作りお菓子とお茶を楽しみながら、
お気に入りの布や糸でチクチクぬいぬい♪

今年からの
新プロジェクト「ぬいカフェ」。初回は少ない参加者でこぢんまり。でも、豪華おやつを前にチクチク針も進みましたよ♪



上: ♪きな粉クッキー、バナナソーダブレッド、ピーナッツバタークッキー
下: ♪鏡開きのおぜんざい

さて、まずは縫い方の基本をおさらい

です。小学校

で習ったあの運針、みなさん憶えていますか？指ぬきの使い方は?? 玉結びは?? 本当に一からの出発。でも、誰でもできるんです。昔はみんなやっていたんです。お母さんは、夏や冬の終わりが来るたびに、家族みんなの着物を解いて洗い、仕立て直すのが普通のことでした。それが衣替え。

だから日本の着物は、直線裁ち・直線縫いが基本のき。針仕事によってハリを与えられ丈夫に仕立てられてはいても、玉結びを切って糸を引けば、簡単に解けて一枚の布に還るといって、とても合理的な仕組みで成り立っています。

シミがついたり弱くなったところは補修して目立たないところに廻して使い、もうどうしても着物にはできなくなった布を継いで、布団や風呂敷にしたり、また解いて継いで前掛けや布巾にしたり……最後は雑巾にして、ボロボロの糸くずになっても風呂やかまどの焚き付けにして、大事に使い切るのが当然でした。だって元は命ですもの。麻も木綿もお蚕さんも、糸を紡ぎ、染め、織ってくれた人々の営みも、一枚の布の中に籠っていることを、みんなどこかで感じていたのでしょう。暮らしの中にあつた当たり前のめぐり……循環型なんてわざわざ構えなくても、私たち日本人の文

化の中には、自然に支えられ、だからこそ大切に、繋いで行く精緻な仕組みが幾重にも張り巡らされ、美しく洗練されてきたのです。それをすっかり棄ててしまうのは、本当にもったいないこと。この一針は、忘れ去られかけた暮らしの美しさと新たに出逢うための第一歩なのかもしれません。……そんな話に花を咲かせながら、さらしの布とはぎれを使って、使うのがちょっともったいない(?)かわいい布巾を縫いました。不揃いな針目も、それはそれで、すてきな味わい。

「毎日練習が要るね」「今度来るまでに、布巾の中を運針でうめてこよう!」「私は刺し子がやりたい」と、みなさんそれぞれに目標を持ったようで、次回がとても楽しみです。

後日、この様子を知ったとある男性から「ジーンズを補修したい!」との申し出があり、第2回はリフォームにスポットをあてての開催となりました。

もう着れないけど捨てられない……思

い出の服や穴のあいた靴下、かわいい柄が愛おしい布やボタン、糸たちがお家で眠っていませんか? 「いつか使おう」と思っているもついついタンスの肥やしに……そんなあなた、ぬいカフェでリフォームデビューしてみましょ♪

第3回は3月11日(日)午後1時から開催です。日曜日の昼下がり、ゆるっと「ぬいカフェ」いかがですか?

(文/ぬいカフェプロジェクト 池田 浩子)

関連時情報 P9、P15



♪第1回みんなの作品です。



♪針山もはさみカバーも手作りです

地球のなかま

クリスマスやお正月、
彩りがいいエビは人気のメニューです。
彼らはどこからやって来たのでしょうか。

私たちが食べてきたもの——食としての生き物 日本人はエビがお好き？—— 先進国で消費されるエビ

文／ニューズレター編集部 千葉 有紀子

●エビの暮らし

エビは、分類の仕方により、種類の数が違ってきましたが約2500種もいます。今回は、日本人とかかわりの深いクルマエビ属クルマエビ科に属するエビの生活を見てみます。クルマエビ、ブラックタイガー、バナメイ、大正えびなどはすべてこの属です。

沖合であれ近海であれ、浅い海に生息する親エビが産んだ卵はプランクトンの姿での生活を送った後に、いくたびか脱皮して姿を変え、やがて小さなエビとなります。この卵から小さなエビの間にだんだんと海岸に近付いてきます。海岸の浅瀬で大きくなってやがて沖合へと戻っていき、卵を産みます。日本の大正エビだとその期間は約2年、しかし熱帯産のエビだと10数か月です。親エビは大量に卵を産みます。しかし、そのうち、親エビまで成長するのはごくわずかです。

●天然と養殖

熱帯では小さなエビはマングローブ林の淡水と海水の混ざった汽水域で生活しています。そのときに捕らえて養殖池へと放ち、大きくして売られるのが、養殖物です。天然のエビは沖合でトロール船で捕られています。海の底をさらうようにして捕るため、資源の枯渇が心配されます。そのときに一緒に捕ってしまった他の魚を捨ててしまふなど、その問題はエビだけにとどまらないのです。もちろん、現地の方は通常はそういった魚を捨てたりはしません。なぜそうなるかと言うと、出かけていくために

燃料代がかかり、冷凍施設などの設備投資もかかります。また、大きなトロール船ほど沖合に出ている期間も長くなります。価格の高いもの（エビ）をなるべく持って帰りたいので、価格の安いもの（雑魚など）を捨てて帰らざるをえないのです。

●エビと日本人

1988年に発行された『エビと日本人』（村井吉敬著、岩波新書）によれば、このとき日本は世界一のエビ輸入国でした。1985年のデータで、世界で貿易されているエビの32・9%を輸入していたのが日本、二位のアメリカは25・3%でした。この当時日本人は、一人平均で年に70匹のエビを食べていました。その9割が輸入ですが、今は、一位の座をアメリカに譲りましたが、それでは減っているのかというところというわけではなく、2007年に発行された『エビと日本人II』によると、世界のエビの輸入量は55万7千トン（1985年）から155万6千トン（2004年）へと3倍になっています。日本は18万3千トンから24万2千トンへとやはり増えています。アメリカと日本で4割以上、そこにEUを加えると8割弱を先進国が輸入しているのです。

一方生産する側は、インドネシアなどの熱帯地域が多く、その地域でマングローブ林を切り拓き、養殖池を作っています。そのマングローブの木も炭にして日本に輸出されています。

養殖池も本来、水を抜いて日光消毒すれば半永久的に使用できるところを、生産性を上げるため消毒をせずに使用し続けてい

ます。そうすると、池の底にヘドロが溜まり、不衛生な状態になります。その状態では病気も発生しやすくなり、薬を投入せざるをえなくなったり、また何年か経てば使い捨てにせざるをえなくなります。そうして、またマングローブ林が減っていくのが現状です。

●自然から養われている意識

地球環境保全に尽力した人を顕彰する「KYOTO地球環境の殿堂」の第3回表彰式が京都市で行われ（2月12日、京都市左京区・国立京都国際会館）、殿堂入したレスター・R・ブラウン氏が講演をしました。「温暖化で温度が1度上がると、収量は10パーセント減る、食糧危機は間違いないやってくる」。本で読むよりも、やはり直接聞くと言葉が耳に残ります。豊かな（だったと言わなければならない）地球の恵みに支えられていたことに、意識を払わないといけない時期にきているのです。

海の資源を使い果たし、また、エビを養殖するために、マングローブ林を減らし、そうして、安くなったエビを先進国の人たちがたくさん食べる。そんな贅沢の影で、だんだん地球の力が衰えていくのを、いままさに見せつけられています。昔ほどエビもおいしく感じなくなったのは、私だけでしょうか。

参考文献

酒向 昇『えび 知識とノウハウ』1979年、水産社
村井吉敬『エビと日本人』1988年、岩波新書
村井吉敬『エビと日本人II』2007年、岩波新書
山本博史『現代たべもの事情』1995年、岩波新書



みどりの特派員便り

✿ 全国で活躍する環境市民の会員さんが、「みどりの特派員」として地域の活動や思いを紹介します。

埼玉県に有機農業で知られる小川町というまちがあります。昨年の12月、私は小川町の取り組みを見学するツアーに参加してきました。ツアーのメインは、小川町の中でもいち早く有機農業が始められた霜里農場。この農場では、食の自給が行われているだけでなく、近くの豆腐屋から出た廃油や、家畜のフンから出たバイオガス、太陽電池などを利用してエネルギーの自給も実現されています。生み出されたエネルギーは、農機や車の燃料、自宅用の電気として

使われていました。そして、震災の影響で停電のエリアだったにも関わらず、ほとんど困ることはなかったということです。原発など外部に依存しないと成り立たない都市のライフスタイルと比較すると、エネルギーも含めた地域の自給こそが今、大切なことだと実感しました。

他にも多くの画期的なプロジェクトが継続的に実践されていました。ツアーの中で紹介されたのは、米の農家と都市部の企業との連携事例です。企業が社員用に米を継

続的に買い取るだけでなく、農業体験などを通じて社員の農業に対する理解が深まり、いつの間にか会社の屋上では家庭菜園が始められていたそうです。霜里農場の見学ツアーは年に数回開催されているようです！



メタンガスの説明を聞いているところ

霜里農場のウェブサイト URL
<http://www.shimosato-farm.com/>
(文/環境市民会員 松村 夏子)

インフォ@エコ

✿ 環境に関するオススメの本、映画、音楽などを紹介します。



「あな吉さんのゆるベジ異国風ごはん 野菜100%でつくる、「あな吉流」世界の料理」

浅倉 ユキ (著) 河出書房新社 価格：1,500円+税

子どもの頃から、肉を食べることに抵抗がありました。かわいそうだからというわけじゃなく、自分の手で動物を殺して皮をはぎ、つぶすなんてとてもできるとは思えないのに、自らの手を汚さずにきれいにパックされた「お肉」を、ただ「おいしい」と食べることは、いのちへの姿勢として何とも軽すぎると感じ、心が痛かったのです。環境の観点からも肉食はよろしくない。でも、タンパク質は摂らないといけないから、しょうがないと思ってました。そんな長年の悩みを一掃してくれたのは、たまたま図書館で手に取った本との出会いでした。ゆるベジ？

えっ、動物性タンパクがなくてもよかったおいしい料理ってできるんだ！？ 常に完璧じゃなくていいんだ！

すてきな写真と簡単なレシピに導かれ、野菜や豆、穀物、乾物などの新しい使い方を知り、その知られざるおいしさに大感動。

「私、ベジタリアンになりました」。晴れ晴れと宣言できるようになって丸2年が経ちます。体は健康そのもの、往復25kmの自転車通勤だって平気、おいしいものもしっかり食べられています。しかも、トレイやラップのごみが減り、家計も助かり、生物濃縮による被曝リスクだって下がるのだ。からだココロと頭のすべてで感じる「おいしい」が手に入りました。菜食ばんざい。

(文/環境市民会員 南村 多津恵)

●みどりの特派員募集中！● みなさんの近況をお知らせください

(MAIL) newsletter@kankyoshimin.org (FAX) 075-211-3531

(郵送) 〒604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下る225 第二ふや町ビル405号室
NPO法人環境市民 みどりのニューズレター編集部 宛

SKIPの! エコファイト劇場

vol.61



環境共育チームSKIPの環境プログラム「エコファイト劇場」をキャラクターでしています。

イラスト：かわみん



環境市民

かんきょうしみんぶんのいち

★環境市民の会員を紹介します

no.82 池田浩子さん

環境市民で交野市の環境基本計画策定コーディネータを務める。日本古来の身体観・感覚と暮らし方について深く探究・実践し、四年前からは推定江戸期の古民家で暮らしている。



**日本古来の暮らし方、その佳さを伝えたい
一人ひとりの変化が、「環境問題」に生きた変革をも
たらしと信じて**

「地域の環境保全・まちづくりの柱となる『環境基本計画』。そのコーディネータにおいて、住民主体をテーマとしているそうですね？」

実は以前東京の環境調査会社に勤務し、様々な地域の環境調査を行い、自然環境情報に基づいたまちづくりの計画提案等に携わりました。しかし実行まで関与することはできず、「計画が本当に生かされているのか？机上の空論ではないのか？都会のビルの一室で、パソコンに向かうだけの人間に、自然や環境について語る資格があるのか？」という疑問が膨らんでいきました。「もつと土や人に近い場所で、本当に環境のことを考えた活動がしたい」と退社を決め、デスクワークから一転、フィールドに出たんです。自然農や、草木染め、放置竹林の整備・活用など、約10年間興味を持った活動に次々と参加して勉強するうち、「一人ひとりの人間が変わること・市民の力こそ生きた変革につながる」と身をもって学ぶことになったんです。

「プライベートでもエコライフを実践していると伺いました」

「エコ」っていう言葉、実はあんまり使いたくないんです。昔の日本

人の「当たり前」暮らし方に接すると、何か恥ずかしいから。

今、五年前に出会った古民家で昔ぐらしを実践しています。薪ストーブを自分で設置して、そこで調理をしたり暖を取ったり、自然農の畑で野菜を作ったり。基本的に必要があれば自分で作り、ガスもなるべく使いません。生ごみは全て畑に還します。

小さい頃から裁縫や料理が好きで、京都工芸繊維大学の意匠工芸学科出身。大学ではごみ捨て場で拾ったものをリメイクしてみんなに喜ばれたり、卒業制作もごみをモチーフに自然と人為について考える作品でした。

リメイクは日本の昔ぐらしの一部でした。例えば和裁では、一反の布を着物から季節ごとに新しい用途に作り替え、雑巾にして燃やすまで大切に使うのが当たり前だったんです。そんな和裁やリメイクの佳さを知ってほしくて、今年1月から環境市民で「ぬいカフェ」という活動（P12参照）を始めました。材料は一見ごみのような布の切れ端でも、やってみると創作意欲が引き立てられて面白いです。本物のエコライフは、我慢してやらなあかん、というよりむしろ本来の感覚を思い出せる、楽しくて豊かな営みだと思っています。

今は何かの犠牲を伴って量産されたものばかりが流通し、そうでないものを得ることは難しいですよ。ぬいカフェがそんなことを考える場にもなればと願っています。

「経験を基に環境について伝える方向に踏み出しているんですね」

今一人住まいの古民家ですごく広くて、多くの人に来てもらいたがっている気がしたので、ここを拠点に何か環境について伝える活動ができないか考え始めました。文化・気候風土・自然と人間とのつながり・循環が、「当たり前」だった日本古来の暮らし方。そのほんの一部ではあっても、身をもって経験してきた感覚を伝えていければと思います。

「環境問題をはじめ様々な社会問題の根本解決のために、一人ひとり（私自身）がどうあればいいのか」と考え続け、ようやく少しだけその「答え」が見えてきました。それは多分に感覚的な事柄を含むので、どのような形に結実するか自分でも未知数です。

ただ、「環境問題」という視点から入らないようにはしたいです。問題認識や否定から入ると、結局問題に突き当たる経験が多々あったから「佳い」と思えることを膨らませるような取り組み方ができればいいですね。今見捨てられていた日本古来の佳さを改めて見つめ、育てていく。何千年も受け継がれてきた人の営みに学び、それを基に新たな文化の芽を生み出していく。そんな取り組みの先に、「環境問題」の解決もあると思います。（文/ニュースレター編集部 和氣未奈）

編集後記

3.11から一年。原発事故による放射能汚染被害を少しでも軽減しようと、防御の方法を日々伝え続けたこと、なんとも悔しい思いをしたことを思い出します。政府や電力会社に私たちの未来を決められるのはもうたくさん。自分たちの未来は自分たちで選んでいきたい、とあらためて思います。（ニュースレター編集部 有川 真理子）

編集部

(五十音順)

- 有川 真理子
- 石田 浩基
- 風岡 宗人
- 久保 友美
- 坂部 安希
- 角出 貴彦
- 高橋 ぐみ
- 鷹野 圭
- 麻里 紀子
- 千葉 諒平
- 村田 未奈
- 和氣 未奈
- デザイン 智子
- 下 智子

に学び、それを基に新たな文化の芽を生み出していく。そんな取り組みの先に、「環境問題」の解決もあると思います。（文/ニュースレター編集部 和氣未奈）

会員
限定

みどりのニュースレターをPDF配信 ペーパーレスでエコ&エコノミー



本誌「みどりのニュースレター」は会員を対象にPDFデータでも配信しています。PDFで購読していただく、紙や印刷、郵送費用が削減でき、また環境負荷も下げることができます。また、みなさんのお手元で場所をとらずにコンパクトにまとめることができ、必要な情報を検索したりすることもできます。

これを機にPDF配信を希望される方は、以下のEメールまでご連絡ください、



申し込みアドレス: kouhou@kankyoshimin.org

申し込みメールの件名: PDF 配信希望

- ①お名前
- ②連絡先電話番号
- ③配信先メールアドレス

……以上を記載の上、お申し込みください。

📻 ラジオ番組「環境市民のエコまちライフ」 京都三条ラジオカフェ (79.7MHz)

身近な話題から旬の話題まで環境の視点から情報発信 ● 放送時間: 毎週月曜午後 1:00 から 1:15 (再放送は火曜朝 7:00 から)
インターネットでの試聴・ダウンロードはこちら → URL: <http://kankyoshiminradio.seesaa.net/>

環境市民に 入会しよう!

環境市民は、多くのボランティアと会員の皆さんの参加によって支えられています。
「持続可能で豊かな社会づくり」のために、ぜひ会員になって環境市民の活動を応援してください!

会員特典

- 月刊会報誌「みどりのニュースレター」をお届けいたします。
- 行事などの参加費を割引させていただきます。
- 環境に関する様々な情報を得たり、また質問や相談ができます。

会費

種別	年会費	入会金
個人会員	4,000円	1,000円
ペア会員	6,000円	2,000円
シニア・学生会員	3,000円	—
ファミリー会員	8,000円	2,000円
助成会員	10,000円	—
特別助成会員	50,000円	—
終身会員	一括 80,000円	—
営利法人会員**	1口 50,000円	50,000円
非営利法人会員**	1口 10,000円	2,000円

※年会費は一口以上

会費の振込み方法

- 1) 郵便振替振込用紙に、住所・氏名・電話番号・会員の種類・送金内容事項をご記入の上、「年会費+入会金」をご入金ください。(※シニア・学生・助成・特別助成会員は入会金不要)
- 2) ご入金を確認後、最新のニュースレター、入会記念としてポストカードをお届けします。

寄付をする

住所・氏名・電話番号・寄付金額をご明記の上、下記の振込先へお振り込みください。

会費・寄付のお振込み先

【郵便振替】 口座番号: 01020-7-76578
加入者名: 環境市民

(発行) 特定非営利活動法人 環境市民 (代表) 校本 育生 (発行人) 堀 孝弘

TEL: 075-211-3521 IP 電話: 050-3581-7492 FAX: 075-211-3531

E-mail: life@kankyoshimin.org URL: <http://www.kankyoshimin.org>

〒604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下 第二ふや町ビル 405

(月から金午前 10:00 から午後 6:00)

● 環境市民 東海事務所

TEL&FAX: 052-521-0095

E-mail: tokai@kankyoshimin.org URL: <http://www.kankyoshimin.org/tokai/>

〒451-0062 名古屋市西区花の木 1-12-12 AOIビル 4階

● 環境市民 滋賀事務所

TEL: 077-522-5837 E-mail: cefshiga@kankyoshimin.org

〒520-0046 大津市長等 2丁目 9-12 竺 文彦気付



この印刷物は風力発電による自然エネルギーを使用して植物油インキで印刷しました。印刷: (有) 糺書房

本誌の無断複写・複製・転載を禁じます。
「環境市民」登録商標 第4809505号



環境市民
Citizens Environmental Foundation

